

# 令和3年度 予算施策評価表

様式1

施策名	自然環境と生物多様性の保全				予算施策コード	kk16	
担当部局名	県民環境部	環境局	自然保護課	評価責任者	課長 仙波 元衛	連絡先	2366

## 1 施策の内容

施策の目標	自然環境と生物多様性の保全により、県民が自然との共生を図ることができる社会をつくる。
これまでの取組み	<p>優れた自然環境の保全に関しては、自然公園等における各種行為の規制、自然保護パトロール等巡視活動、県民総ぐるみの清掃活動、鳥獣保護区設定等による鳥獣の適正管理、公益財団法人動物園協会の協力による傷病鳥獣の保護等を行い自然環境の保全に取り組んでいる。</p> <p>自然とのふれあいの推進に関しては、自然公園や四国のみちにおける休憩所、便所、標識等の整備、自然観察会の開催のほか、自然環境の保全に責任を持った持続可能な自然の利用のあり方として「エコツーリズム」を推進している。</p> <p>また、生物多様性の保全に関しては、平成29年2月に策定した「第2次生物多様性えひめ戦略」に基づき、「人と自然が共生する豊かな自然と文化が育まれる地域社会」の実現を目指し、平成24年度に設置した「生物多様性センター」及び市町や団体とも連携し、関連施策を総合的・計画的に推進している。</p>

成果指標名(目標の達成度合いを示す指標)											
A	自然公園、四国のみちの利用者数					B	鳥獣保護管理法違反件数				
選択理由	利用者数の推移から、自然環境の保全状況、施設整備の事業効果が計れるほか、自然との共生の実現の度合いを知ることができる。					選択理由	違反件数の推移から、自然保護の意識啓発の効果を測定できる。				
算定方法	市町調べによる。					算定方法	県が法律違反情報を確認した数(警察からの法律違反被疑事件送致通知書を含む)。				
成果と指標の関係	中	指標の種類 (ストック/フロー)	フロー	指標の種類 (プラスマイナス)	+	成果と指標の関係	弱	指標の種類 (ストック/フロー)	フロー	指標の種類 (プラスマイナス)	0

指標・事業費・人件費の推移												
区分	成果指標A			成果指標B			事業費(予算)				事業費(決算)	人件費
	計画	実績	達成率	計画	実績	達成率	予算計	国費	その他	県費		
単位	千人			件			千円					
元年度	5750	5138	89.4%	0	5	-	119,694	40,387	28,123	51,184		72,761
2年度	5750	3545	61.7%	0	0	-	272,326	171,273	30,019	71,034	251,506	87,289
3年度	5750	R4.6月判明	-	0	0	-	163,600	82,021	34,446	47,133	137,111	70,785
4年度 目標値	5750			0			4年度当初予算					
最終目標	5750			0								

## 2 施策の評価

県の関与の必要性		説明	<p>自然公園等、自然の優れた風景地の保護及び鳥獣保護管理は、法律、条例により県の責務として定められているほか、生物の多様性の保全に関する総合的な施策を策定し、実施することについても、同様に定められている。</p> <p>また、県内で自然景観、野生動植物の保護等について、民間の活動団体等が個別に実施している実態はあるものの、広域的かつ統一的に実施されている活動は無く、全県を対象に効率的かつ効果的に推進するためには、県の積極的な関与が必要である。</p>					
中								
成果指標A		説明	<p>開発行為等の許認可や自然保護活動の継続等により自然の優れた風景地が守られている。</p> <p>しかし、自然公園施設の適切な管理による利用者の安全確保や利便性の向上については、近年の厳しい予算状況等から十分な維持修繕が行えず、一部の施設は立入禁止等の措置をとっている。</p> <p>このため、エコツーリズムの推進や、効率的な予算執行により、利用施設の適切な管理や県民ニーズに対応した施設整備に努めることで、ある程度の向上が可能である。</p>					
成果動向	横這い							
成果向上余地	成果向上が可能							
成果指標B		説明	<p>鳥獣保護管理員を県内各地に52名設置し、定期的な巡回を実施するとともに、狩猟者への指導や取締りを実施している。</p> <p>鳥獣保護管理員には、違反行為の取り締まりのほか、鳥獣保護の普及啓発など広範な対応が求められるが、経費面の問題があるため活動が限られている。事業費を増額し、鳥獣保護管理員の活動日数を増やし、活動内容の拡充を図れば、ある程度の違反行為の抑制が期待される。</p> <p>また、自然環境の保全と自然公園等の適正利用等を図るため、自然保護指導員90名を設置し、自然公園内のパトロールと利用者の指導を行っている。</p>					
成果動向	横這い							
成果向上余地	成果向上が可能							
参考：構成事務事業の評価の平均値		成果動向	2.29	順調・向上	成果向上余地	1.93	成果向上が可能	

今後予測される環境変化	<p>「生物多様性基本法」に基づき、「第2次生物多様性えひめ戦略(計画期間:H29～R8)」を策定し、生物多様性センターと連携して希少野生動植物の保全等を行っているが、R4は当戦略計画期間の折り返しに当たり、重点プロジェクト実施の最終年であることから、5年間で実施した施策の検証、次期プロジェクトの検証を行う必要がある。</p> <p>また、新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、安心・安全な公共空間として注目が高まっている自然公園については、多種多様なエコツアーの造成など、より一層の利活用を推進するとともに、自然環境の保全にも努めていく。</p>
-------------	---

## 3 施策の今後の方向性

<p>第六次長期計画「愛媛の未来づくりプラン」推進のための重点戦略方針に基づき、自然環境の保全と適正利用を目指して、引き続き重点的に各種施策に取り組む。</p> <p>具体的には、石鎚山系でのエコツーリズムを推進し、自然公園の利用促進や地域力の向上、自然環境保全に関する意識の向上を図るほか、生物多様性に関する認識の向上と保全活動等の定着を図るため、生物多様性センターにおいて野生動植物の調査を継続して実施し、自然観察会等の開催を通じた普及啓発を行うとともに、多様な主体の参画、協働を図る施策を実施する。</p> <p>また、自然公園や四国のみちなど、豊かな自然とのふれあいを促進するための利用施設について、老朽施設の更新や適切な維持・管理等に努めるとともに、イノシシやニホンジカ等の野生鳥獣の管理の強化及び狩猟の適正化のための施策を実施する。</p>
--

4-1 事務事業管理シート（評価対象事業）

							予算施策名				kk16	自然環境と生物多様性の保全			
1	自然公園等施設整備事業費		指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位: 千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	評価 成果動向 4成果順調である 向上余地 2一定の成果向上余地あり  新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一時的な利用者数の減少がみられるが、コロナ対策として公衆便所の改修等を実施し施設整備数が増加している。  見直し方向性 方向1 このまま継続 方向2 方向3	
	指標種類1	指標名称1	単位	計画	4808	4808	4808	4808	4808	事業費計	32,673	59,121	21,044		39,200
	成果	+	70-	自然公園利用者数	千人	実績	4409	2985	2772	国費	10,050	23,850	4,950		23,000
						達成率	91.70%	62.08%	57.65%	その他	9,100	4,500	9,000		9,000
	指標種類2	指標名称2	単位	計画	11	7	7	7	7	県費	13,523	30,771	7,094		7,200
	活動	+	70-	施設整備箇所数	箇所	実績	11	10	11	事業費計	32,040	55,017	32,500		
						達成率	100.00%	142.86%	157.14%	国費	10,050	22,130	11,929		
	指標種類3	指標名称3	単位	計画						その他	9,023	4,500	8,867		
						実績				県費	12,967	28,387	11,704		
						達成率	-	-	-	人役	0.6	0.6	0.8		
実施期間	初期	終期	事業の概要					人件費	4,084	4,060	4,840				
	S36	予定・見込があれば記入	自然とのふれあいを求める県民ニーズの高まりに対処し、優れた自然環境にある自然公園の利用を促進し、ゆとりと潤いのある県民生活を実現していくため、公園利用施設を整備する。												
2	石鎚山系地域資源活用共生事業費		指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位: 千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	評価 成果動向 4成果順調である 向上余地 2一定の成果向上余地あり  新型コロナウイルスの影響で石鎚固定公園の利用者及びエコツアー参加者は減少しているものの、事業開始(H27)からR元年までは順調に増加しているほか、新たにエコツアーガイドの認定制度を創設するなどツアーの質向上を図っており、向上が期待される。  見直し方向性 方向1 このまま継続 方向2 方向3	
	指標種類1	指標名称1	単位	計画	427	427	427	427	427	事業費計	9,833	10,439	8,161		8,161
	成果	+	70-	石鎚固定公園の利用者数	千人	実績	373	301	282	国費	2,961	3,259	2,911		
						達成率	87.35%	70.49%	66.04%	その他	1,000	1,000	1,000		1,799
	指標種類2	指標名称2	単位	計画	3000	4000	5000	5000	5000	県費	5,872	6,180	4,250		6,362
	成果	+	70-	エコツアー参加者数	人	実績	4406	5199	4055	事業費計	9,536	7,438	4,110		
						達成率	146.87%	129.98%	81.10%	国費	2,859	1,967	0		
	指標種類3	指標名称3	単位	計画						その他	1,000	1,000	1,000		
						実績				県費	5,677	4,471	3,110		
						達成率	-	-	-	人役	0.7	0.7	0.7		
実施期間	初期	終期	事業の概要					人件費	4,765	4,737	4,235				
	H27	予定・見込があれば記入	本県の自然を象徴する石鎚固定公園を舞台に、エコツーリズムの推進や石鎚山ヒルクライムの開催支援を継続するとともに、市町と連携して希少野生植物等の保全対策を新たに講じ、石鎚山系の優れた自然景観と豊かな生物多様性の保全を図る。												
3	生物多様性普及強化事業費		指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位: 千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	評価 成果動向 4成果順調である 向上余地 2一定の成果向上余地あり  H30年度の県政世論調査では60.9%であったが、R2年度の県政世論調査では生物多様性の認識度(知っている・聞いたことがある)は52.7%に低下した。同指標は、全国的に50~60%程度で推移しており、引き続き、「生物多様性」の意義の理解促進を図り、多様な主体の参画や連携体制の構築等を図ること、成果の維持・向上の余地はありと考えられる。  見直し方向性 方向1 このまま継続 方向2 方向3	
	指標種類1	指標名称1	単位	計画	9	9	9	9	9	事業費計	5,371	5,371	5,371		5,371
	成果	-	70-	絶滅のおそれのある野生動植物の割合	%	実績	9	9	9	国費					
						達成率	100.00%	100.00%	100.00%	その他	5,371	5,371	5,371		5,371
	指標種類2	指標名称2	単位	計画	60	60	60	60	60	県費					
	成果	+	70-	生物多様性の認識度	%	実績	60.9	52.7	52.7	事業費計	5,042	4,667	5,034		
						達成率	101.50%	87.83%	87.83%	国費					
	指標種類3	指標名称3	単位	計画	300	300	300	300	300	その他	5,042	4,667	5,034		
	活動	+	70-	高校生チャレンジシップ参加者数	人	実績	180	250	576	県費					
						達成率	60.00%	83.33%	192.00%	人役	0.4	0.4	0.4		
実施期間	初期	終期	事業の概要					人件費	2,723	2,707	2,420				
	H30	R8	平成29年2月に策定した「第2次生物多様性えひめ戦略」に基づき、生物多様性の重要性の普及及び人材育成を促進するため、学校における生物多様性に係る学習活動の支援と、企業の参画を促す仕組みづくりを行う。												

4 生物多様性えひめ戦略推進事業費							指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標	コスト (単位:千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
指標種類1	指標名称1		単位	計画	9	9	9	9	9	9	9	9	事業費計 9,288 国費 0 その他 1,665 県費 7,623	9,288	9,333	9,244	8,398	R30年度の県政世論調査では60.9%であったが、R2年度の県政世論調査では生物多様性の認識度(知っている・聞いたことがある)は52.7%に低下した。同指標は、全国的に50~60%程度で推移しており、引き続き、「生物多様性」の意義の理解促進を図り、多様な主体の参画や連携体制の構築を図ること、成果の維持・向上の余地はあると考えられる。	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
成果	-	70-	絶対のおそれのある野生動物種の割合	%	実績	9	9	9	9	9	9	達成率									
指標種類2	指標名称2		単位	計画	60	60	60	60	60	60	60	60	事業費計 8,290 国費 0 その他 1,369 県費 6,921	8,290	6,903	6,861	このまま継続	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり	
成果	+	70-	生物多様性の認識度	%	実績	60.9	52.7	52.7	52.7	52.7	52.7	達成率									101.50%
指標種類3	指標名称3		単位	計画	10	10	10	10	10	10	10	10	事業費計 2,290 国費 0 その他 1,369 県費 6,921	2,290	1,924	2,158	このまま継続	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり	
活動	+	70-	研修会、ワークショップ等開催回数	回	実績	12	11	7	7	7	7	達成率									120.00%
実施期間	初期	終期	事業の概要										人役	3.0	3.0	3.0	見直し 方向性	方向1	方向2	方向3	
	H24		「第2次生物多様性えひめ戦略」に基づき、県民、NPO等民間団体、企業等事業者、行政などそれぞれの主体が目標を共有し協働・連携して、本県の生物多様性を保全し、その恵沢を将来にわたって享受できる自然と共生する社会の実現を図る。										人件費	20,418	20,298	18,150					

5 自然観察会開催事業費							指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位:千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
指標種類1	指標名称1		単位	計画	100	100	100	100	100	100	100	100	事業費計 1,729 国費 0 その他 1,729 県費 0	1,729	1,729	1,676	1,676	自然観察会への参加を契機として、県民の自然保護意識が高揚し、地域住民による生物多様性保全活動が広がり、定着することを中・長期的な目標としていることから、参加者の満足度が高い当該事業は、順調に実施されていると判断している。人数についても、実施内容にもよるが、学習の充足や安全面への配慮から、県単独では1回20~30名が適当と考えており、	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
成果	+	70-	定員充足率(応募人数/定員)	%	実績	161.9	76.3	99	99	99	99	達成率									
指標種類2	指標名称2		単位	計画	100	100	100	100	100	100	100	100	事業費計 1,444 国費 0 その他 1,444 県費 0	1,444	1,052	1,650	このまま継続	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり	
成果	+	70-	参加者の満足度	%	実績	97.1	98.9	97.8	97.8	97.8	97.8	達成率									97.10%
指標種類3	指標名称3		単位	計画	9	9	9	9	9	9	9	9	事業費計 1,177 国費 0 その他 1,177 県費 0	1,177	1,052	1,650	このまま継続	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり	
活動	+	70-	開催回数	回	実績	14	10	11	11	11	11	達成率									155.56%
実施期間	初期	終期	事業の概要										人役	1.7	1.7	0.8	見直し 方向性	方向1	方向2	方向3	
	H18	R8	自然環境保全に対する県民意識の高揚を図るため、次代を担う青少年など広く一般県民を対象に、豊かな生態系を育む森林等において、植樹等の自然再生活動体験や野外学習、環境教育等を行う自然観察会を開催する。										人件費	11,571	11,503	4,840					

6 外来生物対策事業費							指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標	コスト (単位:千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
指標種類1	指標名称1		単位	計画	100	100	100	100	100	100	100	100	事業費計 0 国費 0 その他 0 県費 0	0	3,232	3,151	2,836	研修会の参加者である、外来生物対策の核となる市町担当者等へのアンケート結果により算出している。外来生物対策は初期対応が重要となることから、実践に則した満足度の高い研修を継続的に実施し、関係機関と連携していくことが重要となる。	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
成果	+	70-	外来生物への対策取組み率	%	実績	54.5	80	80	80	80	80	達成率									
指標種類2	指標名称2		単位	計画	100	100	100	100	100	100	100	100	事業費計 0 国費 0 その他 0 県費 0	0	1,756	2,540	このまま継続	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり	
成果	+	70-	研修参加者の満足度	%	実績	86.3	100	100	100	100	100	達成率									86.30%
指標種類3	指標名称3		単位	計画	6	6	6	6	6	6	6	6	事業費計 941 国費 0 その他 941 県費 0	941	2,640	2,640	このまま継続	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり	
活動	+	70-	関係機関との連携件数	回	実績	9	6	6	6	6	6	達成率									150.00%
実施期間	初期	終期	事業の概要										人役	1.9	1.9	1.9	見直し 方向性	方向1	方向2	方向3	
	R2		生物多様性の危機の一つである「外来生物」について、生息・生育状況や生態系への影響等を調査するとともに、市町とも連携した定着を未然に防ぐための対策推進及び事業者等県民を対象とした普及啓発活動を行い、県民総ぐるみで外来生物対策を推進する。										人件費	12,856	11,495						

7 自然公園等管理費							指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位:千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	3成果横ばい	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
指標種類1	指標名称1		単位	計画	4808	4808	4808	4808	4808	4808	4808	4808	事業費計 2,786 国費 0 その他 1,017 県費 1,769	2,786	4,444	4,479	4,480	新型コロナウイルス感染拡大の影響により、一時的な利用者数の減少がみられるが、近年の健康志向や自然回帰などの傾向により、コロナ収束後には利用者数の増加が見込まれる。	3成果横ばい	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
成果	+	70-	自然公園の利用者	千人	実績	4409	2985	2772	2772	2772	2772	達成率									
指標種類2	指標名称2		単位	計画	942	942	942	942	942	942	942	942	事業費計 2,362 国費 0 その他 941 県費 1,421	2,362	4,167	4,203	このまま継続	3成果横ばい	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり	
成果	+	70-	四国のみちの利用者	千人	実績	729	560	523	523	523	523	達成率									77.39%
指標種類3	指標名称3		単位	計画	180	180	180	180	180	180	180	180	事業費計 1,421 国費 0 その他 941 県費 1,421	1,421	1,527	1,563	このまま継続	3成果横ばい	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり	
活動	0	70-	公衆便所の清掃回数	回	実績	180	180	180	180	180	180	達成率									100.00%
実施期間	初期	終期	事業の概要										人役	0.4	0.4	0.4	見直し 方向性	方向1	方向2	方向3	
	S57		自然公園及び四国のみちの利用者の安全と適正で快適な利用を確保するために必要な施設の維持管理等を実施する。										人件費	2,723	2,707	2,420					

8 狩猟免許費		指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標	コスト (単位:千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	3成果横ばい	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり	
指標種類1	指標名称1	単位	計画	6000	6000	6000	6000	6000	事業費計	6,637	6,823	12,322	10,770	評価	銃所持規制の強化等により、狩猟免許所持者、狩猟者登録者数ともに横ばいの状況が続いている。狩猟制度に関する普及啓発、狩猟免許取得経費への助成等を図ることにより、成果向上の余地はあると考えられる。		
成果	+	スロツク	狩猟免許所持者数	実績	5354	5543	5648	国費									
				達成率	89.23%	92.38%	94.13%	その他	524	748	1,025	900					
指標種類2	指標名称2	単位	計画	5000	5000	5000	5000	5000	事業費計	6,113	6,075	11,297	9,870				
成果	+	70-	狩猟免許登録者数	実績	4286	4233	4243	国費	5,235	5,914	10,163						
				達成率	85.72%	84.66%	84.86%	その他									
指標種類3	指標名称3	単位	計画	934	1108	2475	935	935	事業費計								
活動	+	70-	狩猟免許更新合格者数	実績	935	1079	2411	国費	66	615	900						
				達成率	100.11%	97.38%	97.41%	その他	5,169	5,299	9,263						
				達成率				人役	0.9	0.9	0.9						
実施期間	初期	終期	事業の概要					人件費	6,126	6,090	5,445	見直し 方向性	方向1	このまま継続			
	S54	予定・見込があれば記入	野生鳥獣の保護管理や有害鳥獣の主要な担い手である狩猟者の育成・確保を図る。										方向2				
													方向3				

9 特定鳥獣保護管理計画推進事業費		指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標	コスト (単位:千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり	
指標種類1	指標名称1	単位	計画	30,000	30,000	30,000	33,000	33,000	事業費計	35,336	30,660	28,500	28,500	評価	捕獲の担い手の中心的な役割を果たしてきた狩猟者の高齢化、減少により、捕獲の担い手の横ばい状態が進んでいるが、イノシシの捕獲数が計画の30000頭を上回った。狩猟者の確保対策、指定管理鳥獣捕獲等事業費の増加を図ることにより、成果向上の余地はあると考えられる。		
成果	+	70-	イノシシの捕獲頭数(狩猟、有害鳥獣含む)	実績	23,744	31559	R4年10月頃	国費	27,376	20,919	19,180	19,550					
				達成率	79.15%	105.20%	-	その他	7,717	9,200	6,900	6,900					
指標種類2	指標名称2	単位	計画	11,000	11,000	11,000	11,000	11,000	事業費計	243	541	2,420	2,050				
成果	+	70-	ニホンジカの捕獲頭数(狩猟、有害鳥獣含む)	実績	9,570	10,202	R4年10月頃	国費	34,690	27,567	21,158						
				達成率	87.00%	92.75%	-	その他	26,962	18,160	15,406						
指標種類3	指標名称3	単位	計画	2	1	2	1	2	事業費計	7,495	8,866	3,905					
活動	+	70-	特定鳥獣適正管理検討委員会の開催回数	実績	2	1	2	国費	233	541	1,847						
				達成率	100.00%	100.00%	100.00%	その他	0.2	0.2	0.2						
				達成率				人役	1,362	1,354	1,210						
実施期間	初期	終期	事業の概要					人件費				見直し 方向性	方向1	このまま継続			
	H21	予定・見込があれば記入	農林業被害が大きいイノシシ、ニホンジカ及びニホンザルについて、鳥獣保護管理法に基づき適正管理計画を定め、狩猟の規制緩和による生息数の維持や、モニタリングにより計画内容について検討し、農林業被害の軽減を図る。										方向2				
													方向3				

10 石鎚山小屋ロータリー園地管理費		指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位:千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	3成果横ばい	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり	
指標種類1	指標名称1	単位	計画	382	382	382	382	382	事業費計	2,636	2,821	3,137	3,687	評価	自然公園全体の利用者については、新型コロナウイルス感染拡大の影響により一時的な利用者数の減少がみられるが、石鎚山小屋ルートは利用者数が増加している。		
成果	+	70-	石鎚国定公園の利用者数(久万高原町)	実績	184	188	175	国費									
				達成率	48.17%	49.21%	45.81%	その他									
指標種類2	指標名称2	単位	計画	35	35	35	35	35	事業費計	2,636	2,821	3,137	3,687				
活動	+	70-	清掃回数(4月~11月、土小屋ロータリー園地便所)	実績	35	35	35	国費	2,624	2,808	3,102						
				達成率	100.00%	100.00%	100.00%	その他									
指標種類3	指標名称3	単位	計画	34	34	34	34	34	事業費計								
活動	+	70-	保守点検回数(4月~11月、土小屋ロータリー園地便所)	実績	34	34	34	国費	2,624	2,808	3,102						
				達成率	100.00%	100.00%	100.00%	その他									
				達成率				人役	0.1	0.1	0.1						
実施期間	初期	終期	事業の概要					人件費	681	677	605	見直し 方向性	方向1	このまま継続			
	H13	予定・見込があれば記入	自然公園の利用者の安全と適正で快適な利用を確保するために必要な施設の維持管理を実施する。										方向2				
													方向3				

11 自然環境保全行政費		指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位:千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	3成果横ばい	向上 余地	1成果向上余 地が小さい	
指標種類1	指標名称1	単位	計画	1	1	1	1	1	事業費計	580	580	580	580	評価	違反件数2件あるが、申請が遅れたなどの理由によるもので悪質性はなかった。このまま違反件数が低い水準が維持できるよう努めていきたい。		
成果	-	70-	自然公園、自然海浜保全地区における違反件数	実績	2	2	2	国費									
				達成率	50.00%	50.00%	50.00%	その他									
指標種類2	指標名称2	単位	計画	36	36	36	36	36	事業費計	580	580	580	580				
活動	0	スロツク	自然公園、自然海浜保全地区等の指定箇所数	実績	36	36	36	国費	462	456	457						
				達成率	-	-	-	その他									
指標種類3	指標名称3	単位	計画	70	70	70	70	70	事業費計								
活動	0	70-	自然公園等の許認可件数	実績	56	61	43	国費	462	456	457						
				達成率	-	-	-	その他									
				達成率				人役	1.0	1.0	1.0						
実施期間	初期	終期	事業の概要					人件費	6,806	6,766	6,050	見直し 方向性	方向1	このまま継続			
	S47	予定・見込があれば記入	良好な自然環境を保全し、将来にわたって県民の健康で文化的な生活の確保を図るため、自然環境保全地域、自然公園及び自然海浜保全地区内における各種行為の許認可、届出等の事務等一般的な自然環境保全行政に要する経費である。										方向2				
													方向3				

12 自然保護協会費				指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	3成果横ばい	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
指標種類1	指標名称1			単位	計画	1700	1900	1900	1900	事業費計 1,052 国費 0 その他 0 県費 1,052	1,052	1,052	1,052	1,052	評価 成果 動向	3成果横ばい	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
成果	+	70-	自然公園清掃活動事業の 清掃参加者数	人	実績	2159	1865	1568	達成率		127.00%	98.16%	82.53%	このまま継続				
指標種類2	指標名称2			単位	計画	2500	2500	2500	2500		事業費計 1,052 国費 0 その他 0 県費 1,052	1,052	933					
成果	+	70-	国立公園清掃活動事業の 清掃実施地域の面積	ha	実績	2268	2268	2268	達成率	90.72%		90.72%	90.72%					
指標種類3	指標名称3			単位	計画					事業費計 1,052 国費 0 その他 0 県費 1,052		1,052	933	921				
実施 期間	初期	終期	事業の概要								人役	0.7	0.7	0.7	方向1 このまま継続 方向2 方向3			
S51	予定・見込 があれば記入		県内の優れた風景地を保護するとともに、自然保護思想の普及と高揚を図ることを目的とし、県、市町、民間企業、関係団体、一般県民で構成する「愛媛県自然保護協会」に助成する。								人件費	4,765	4,737	4,235				

13 宇和海海域公園サンゴ保護対策費				指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
指標種類1	指標名称1			単位	計画	10000	10000	10000	10000	事業費計 700 国費 0 その他 0 県費 700	700	700	700	700	評価 成果 動向	4成果順調である	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
成果	0	70-	シロレイシガイダマシ類 の駆除数	個	実績	161	46	43	達成率		-	-	-	このまま継続				
指標種類2	指標名称2			単位	計画	300	300	300	300		事業費計 700 国費 0 その他 0 県費 700	700	700					
成果	0	70-	オニヒトデの駆除数	個	実績	929	534	334	達成率	-		-	-					
指標種類3	指標名称3			単位	計画	80	80	80	80	事業費計 700 国費 0 その他 0 県費 700		700	700	700				
活動	0	70-	シロレイシガイダマシ類 の駆除ダイバー延べ人数	人	実績	70	69	55	達成率		-	-	-	方向1 このまま継続 方向2 方向3				
実施 期間	初期	終期	事業の概要								人役	0.1	0.1		0.1			
H3	予定・見込 があれば記入		優れた海中景観を有する宇和海海域公園において、サンゴ類に被害を与えるシロレイシガイダマシ類の発生が確認され、その食害が問題となっており、被害が拡大する恐れがあることから、駆除を継続的に実施する。							人件費	681	677	605					

14 鳥獣保護事業費				指標動向	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	最終目標 (R?)	コスト (単位：千円)	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	成果 動向	3成果横ばい	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
指標種類1	指標名称1			単位	計画	0	0	0	0	事業費計 5,971 国費 0 その他 0 県費 5,971	5,971	7,627	7,203	7,203	評価 成果 動向	3成果横ばい	向上 余地	2一定の成果向上余 地あり
成果	0	70-	鳥獣保護管理法違反件数	件	実績	5	0	0	達成率		-	-	-	このまま継続				
指標種類2	指標名称2			単位	計画	832	832	832	832		事業費計 5,509 国費 0 その他 0 県費 5,509	5,509	6,677					
活動	0	70-	鳥獣保護管理員の活動日 数	日	実績	832	832	832	達成率	-		-	-					
指標種類3	指標名称3			単位	計画					事業費計 5,509 国費 0 その他 0 県費 5,509		5,509	6,677	6,333				
実施 期間	初期	終期	事業の概要								人役	0.7	0.7	0.7	方向1 このまま継続 方向2 方向3			
S38	予定・見込 があれば記入		鳥獣保護管理員の設置、鳥獣保護区等の指定整備、傷病鳥獣の保護、鳥獣保護思想の普及啓発及び鳥類生態調査等の実施等に要する経費であり、野生鳥獣の保護繁殖と狩猟の適正化を図る。								人件費	4,765	4,737	4,235				



4-3 事務事業管理シート（新規事業）

予算施策名 **kk16** **自然環境と生物多様性の保全**

1 大洲脇川・四国のみち利用促進事業費	コスト (単位：千円)		4年度
		事業費計	
国費			
その他			2,000
県費			

2 AI活用生き物探求支援事業費	コスト (単位：千円)		4年度
		事業費計	
国費			
その他			4,732
県費			